

支那だまり

No. 19



福井県若狭和田マリーナ

1981. 10

支部長あいさつ

土木の視界

アンケート報告

地方だより〈福井県三国町周辺〉

支部役員紹介・表紙説明

事業計画一覧表

ご挨拶

——原点志向——

土木学会関西支部 支部長 丹羽 義次



このたび、はからずも支部の皆様方から、荣誉ある土木学会の関西支部長に推挙をいただき、身に余る光栄に存じます。私、浅学非才、とてもその大任を果せる器ではありませんが、皆様方のご期待にそうべく鋭意努力して参る所存でありますので、よろしくお力添えのほどお願い申し上げます。

かえりみますと、土木学会が1914年（大正3年）に工学会より分離・独立して設立されて67年になりますが、今日では会員数約27,000名を擁し、各種の委員会、小委員会、懇談会は合せて109に達し、その活発な活動によって学術・技術の発展に大きな貢献をしておりますことは、誠にご同慶の至りであります。

一方わが関西支部は、他の支部にさきかけて昭和3年1月に創設されましたが、爾来、連綿と歴代の支部長、幹事長をはじめ関係各位のご尽力により著しい発展をとげ、今日では会員数約5,500名、賛助団体316を数え、講演会・講習会等も年間20を超える活況を呈し、また地域に密着した委員会活動も行われ、文字通り日本一の支部に成長しましたことは、これまた誠にご同慶の至りであります。

支部創立40周年を記念して刊行されました“関西の土木100年”に掲載されている関西支部40年史に、“われわれの支部は平民的で、若々しい活気に満ちたものでありたい”という支部創立当初の気風が特記されていますが、さらに“これはいかにも関西らしいよいふん囲気であり、いつまでも、この支部の伝統として、引き継いで行きたいものである”と記されています。

また同書のまえがきに、当時の河村支部長は“わが関西には、日本の土木をリードしようとする気概が脈々として流れ、古来多数の「日本一」、「わが国最初」のほまれをになってきたが、（中略）その強い底流として東京のオリンピック、大阪の万博という反骨と独立の精神があることを見のがすわけにはゆかない”と述べておられますが、誠に達見であると存じます。

私は、この支部創立当時の原点に立ち帰り、その気風

略 歴

丹羽 義次

生年月日 大正12年12月22日

昭和21年9月 京都帝国大学工学部土木工学科卒業

昭和23年9月 同 大学院第一期終了

昭和23年11月 同 工学部講師

昭和26年6月 京都大学工学研究所助教授

昭和34年7月 同 工学研究所教授

昭和38年4月 同 工学部教授

現在に至る

と精神を忘れることなく、今後の支部の運営に努力して参りたいと考えております。

さて、われわれ“市民のための工学”をになう技術者としては、現代社会における価値観の多様化にきめ細かく対応してゆかねばならないことや、土木が総合工学・技術であることにかんがみ、学会に集う会員も多種・多様であり、そこで論議されることもまた、きわめて広範囲にわたるものであることを忘れてはなりません。初代の古市会長は第一回総会の会長講演において、「前略、土木は概して他の学科を利用す。故に土木の技師は他の専門の技師を使用する能力を有せざるべからず。(中略)故に本会の研究事項は之を土木に限らず工学全般に拡むるを要す。即ち本会の研究は土木を中心として八方に発展するを要する」と述べられています。まさにこれは今日を見透した土木の原点であります。

また一方、近年における技術革新のめざましきは、今更ここで申し述べる必要はありませんが、華やかな革新技術の開花の陰に忘れ去られがちな、また意外に気づかれない色々の重要な問題が存在することを忘れてはなりません。

前述のとおり、現在の会員数は約27,000名ですが、その55年度の増加はなんと僅か60数名にすぎません。

“いったい、これは正常なことなのだろうか？”

と、誰しも疑問をいだくでしょう。それは、毎年新卒で土木技術界に入るものの数が、およそ大卒10,000名(定員6,500名)、高専1,200名(定員1,200名)、工高8,000名(定員11,000名)、合計20,000名と推定されるからであります。果して学会は、

- (1) 現代社会の価値感の多様化に対応しているか？
- (2) 土木工学・技術の原点を志向した運営を行っているか？

例えば、学会誌はざい分立派で充実しているようにみえるが、土木の原点を志向しているか？ また会員とは一方通行でコミュニケーションがないが、会員と対話のある会誌ができないものか？

- (3) 技術革新に押し流されているのではないか？
- (4) 革新技術を積極的に導入しているか？

例えば、文献コピー技術革新に押し流され、一方では革新技術のコンピュータによるデータベース利用の導入を忘れていないか？

という問いかけを解明することが、今日の学会にとって最も重要な急務であると思われるのではないでしょうか。

私は、今、“会員+60名/年は正常なことなのか？”を時間の許す限り追いつめることが、学会に貢献する最大の道であると考えています。ここに皆様方のお知恵を拝借致したくお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

土木の視界

水力発電・国際空港・防空壕について

吉 田 登

最近海外視察を行い、標記の三議題について調査する機会を得たので、二、三感想を述べたい。

(1) 水力発電

1979年11月「中国水力開発技術訪中団」一電気事業連合会で編成一の団長として中国の水力地点五強溪を視察した。五強溪地点は、日本政府の中国への円借款の対象として選ばれた水力発電所で、楊子江の支流で洞庭湖に流入する沅江の下流部に築造されるものである。ダムサイトの流域面積は83,800 km²で、ダム(中空重力式)の高さ103 m、最大出力は150~180万kwのダム直下式発電所であり、水没予想人口は約17万人と云う膨大な計画であった。中国の包蔵水力は約5.8億kwと推定され、その40%は、楊子江流域にある。此の視察の前にも電力業界で協力した水力地点があり、全部を総括すれば、7水力地点で最大出力は約4,000万kw(日本の既開発一般水力は全国で約1,900万kw)で、発生電力量は重油換算で年間約5,000万klとなる。その規模の雄大さに驚くとともに、広大な国の一端を伺うことが出来た。

1981年3月ブラジルの「イタイプ」水力発電所を視察した。最大出力1,260万kwで現在建設中のものを含めて世界最大の規模である。パラグアイとの国境を流下しているパラナ河に建設中であるが、ダムサイトの流域面積は約82万km²(日本の約2.2倍)で、ダムの高さ190m、ダムの総延長は約7kmもあり、1基70万kwの発電機を18台ダム直下に設置する膨大な計画である。工事は想像していたより順調に進捗しており、1983年には一部発電開始の予定である。建設関係従業員は全部で約3万人ともいわれ、9万人の新しい都市が誕生している。此のパラナ河は、総延長約4,000kmに及んでいるが、現在30ヶ所で水力発電所の建設が進行中で、1985年には約5,000万kwに達するとのこと、これまた想像に絶するものである。

此の両国の水力資源の状況を視察して、世界の包蔵水力を、地球の規模で考察し推進することは、強い石油依存度を幾らかでも緩和することになり、エネルギーの安定に大いに寄与することになるので、先進諸国

が協力して政治的、国際的に難しい諸問題を克服して、広い立場で水力開発をもっと推進すべきではないかと、水力技術者として、発想した次第である。

(2) 国際空港

大阪科学技術センター主催で「主要国際空港調査団」を編成し、団長として、欧米・ラテンアメリカの21国際空港を三回に分けて視察することが出来たので、特に強く印象に残った特長のある空港の概要と感想を述べることにする。

パリでは、オルリー空港(広さ1,600ha)が運用されているが、更に規模の大きいドゴール空港(広さ約3,000ha—関西新国際空港は約1,230ha)を1974年に開港し、欧州第一の規模を誇っている。フランスの将来の発展を空運にかける熱意と期待を強く感じた。欧州には、約60の国際空港があるので相互に競争意識が潜在していることを感じたが、その中で優位性を保持し欧州の玄関口として充実した空港機能を確保していくことは主要国際空港の重要な使命であることを痛感した。

ロンドンでは雄大な構想のマップリン新空港計画を財政上の理由で廃止し、ヒースロー空港を中心として周辺三空港を有機的に運営する方式によって将来の発展に対応しようとしていた。ミュンヘン新空港の建設計画は非常に強い印象を受けた。現在のリエム空港(広さ400ha)は騒音公害問題で飛行時間の制約を受けており、新空港(広さ2,300ha)が完成すれば廃止することに決定しており、関西の空港問題と実によく類似していた。新空港の計画は10数年来の綿密な研究調査の結果立派な総合プランが作成されており、更に1985年開港の目標に向かって周到な準備態勢のもとに着々と進捗がはかられている現況を見聞して、圧倒される思いがした。アトランタ空港の増設工事は目をみはるばかりの大規模のものであった。1978年の旅客数は3,600万人で世界第2位であるが、今回の拡張工事が完成すれば、年間、6,000万人の能力ある設備となり、世界最大の規模となる。それに反して、ワシントン・ダレス空港のターミナルビルは有名な建築家エーロ・

サーリネン氏の設計になるもので、美しい文化的価値のあるものとして称賛されている建造物であるが、航空事情の大きな変化に対応する為の増改築工事は、却ってその為に支障をきたしている現況であり大きな教訓であった。

サンパウロには現在二つの国際空港が運用されているが、更にもう一つ国際空港を建設中で、1983年に完成の予定である。此の三空港を総合的に運用することによって、将来の発展に対応する計画であるが、更に将来計画として、約3,000 haの広大な面積を手配しており、2,000年時点で、3,200万人の旅客数を予想した雄大な構想を持っており、驚嘆した次第である。リオデジャネイロ国際空港や、ブラジリアの創造都市にもブラジルの発想のダイナミズムを感受し、近視眼的な日本民族にも少し注射した方がよいのではないかと痛感した。

各国際空港とも、“国際化時代”に呼応して、その地域特性を配慮し、空港整備や新增設計画に懸命の努力を払っていた。

資源小国である日本が、これからの激動時代を乗り越えて、高度の安定成長を維持していく為には、技術立国こそ、その基幹であるが、その為には、資源を海から輸入し、技術を空海両面から輸出する“空海運併用の時代”を築くことが、これからの日本、特に関西地域に課せられた重要課題で、その為には、整備された関西新国際空港の早期実現こそ、緊急の問題であることを痛感した。

(3) 防空壕(地下利用)

1980年6月ストックホルムで開催された“Rock Store 80”の国際会議に、ISRM(国際岩の力学会議)のアジア地区副総裁として出席した。会議の主題は“地下利用”で、環境保全、低コスト貯蔵・エネルギー節約がその主な内容であった。エネルギー資源の地下貯蔵や原子力廃棄物の地下格納に関する多くの論文も発表された。

最近の世界的な傾向として、地下の有効利用は多角的に検討されており、水・食糧・エネルギー資源等の

貯蔵のみでなく、体育設備や文化活動の場としても利用されてきた。

世界人口が増加し、都市への集中化が進んでいる現状に対処して、地上空間のみでなく地下空間も有効に利用し、人間は地上、物は地下へを強調した国際会議であった。

会議後、フィンランドの、視察旅行に参加したが、防空壕の建設が非常に促進されているのに驚いた。現在約204万人収容できる防空壕が造られており、全人口の約44%に相当するもので、世界で最も進んでいる国とされており、特にヘルシンキでは86%収容可能とのことである。フィンランドでは法律によって、1,500人以上収容するセンターは地下に造ることになっており、これを平時に有効利用することによって促進を図っている。平時には、貯蔵用倉庫・スポーツ施設・レジャー用設備・展示場・研究設備・駐車場等に使用し、非常時には24時間で防空壕に切換え使用出来る様設計されている。建設費は同じ構造物を地上に建設する場合に比較して、約10~50%増加するが、保守運営の面で経費が約50%節減でき、省エネルギーの効果もあることを強調していた。

ヘルシンキの市街地中央に位置しているTähtitorni-mäki シェルターを視察したが、これは1976年に完成し、非常時には防衛指令本部となる処で、本部としての機能を完全に発揮できるよう諸設備が完備されており、5,750人も収容でき、24時間で切換え、2週間の退避が出来るとのことであった。常時は、240台の駐車場として使用されていた。その他平常時は、アイスホッケー場として使用する建設中のシェルターや、非常時には、シェルターに切換え可能な地下鉄の5停留場等も視察した。

我が国の防衛感覚ではとても理解し難いものであるが地下利用については、狭い国土で都市集中化も進んでいるので、多角的な地下の有効利用をもっと真剣に検討すべきでないかと痛感した。

アンケート報告

望ましい支部運営の模索 (1)

— アンケートにあらわれた会員の意向 —

はじめに

土木学会関西支部では、毎年、講習会や研修会、見学会など多彩な行事を企画して土木工学の全般にわたって学術・技術情報の提供や交換につとめております。当支部における学会活動を一層魅力あるものとするために、昭和55年度に関西在住の正会員を対象として行われたアンケート調査から会員諸氏の支部行事に対するご意見を分析してみました。アンケートには関西在住の会員の29.8%にあたる1,243名の方々から数多くのご意見、ご希望をいただきました。調査にご協力下さいました会員の方々並びに支部関係者各位に本稿を借りて厚く御礼申し上げます。

ここでは、アンケート調査の集計結果やそれらの一次的な分析を中心として報告することにしました。私達は、このようなアンケートを通して会員の方々が当支部企画の諸行事に対してどのような意識を抱いておられるかを把握して、今後の支部運営および行事企画等の諸活動に反映させたいと考えております。

1. 回答者の属性

アンケートはⅠ. 行事について、Ⅱ. 「支部だより」について、Ⅲ. あなたご自身について、という構成となっています。まず、回答をいただいた方々の特徴を調べてみました。

(1) 年齢： 回答者は30才代がもっとも多く、次いで40才代、20才代の順となっている。関西在住の会員構成と比較すると、回答者は40才代以上の比率が高くなっている。(図-1)

(2) 勤務先： 官公庁からの回答者がもっとも多く、続いて学校、建設業、コンサルタントの順となっている。会員構成との対比では、学校、官公庁、公社・公団、ガス・電力・私鉄などの比率は高く、コンサルタント、建設業、鉄鋼・橋りょう・コンクリートでは会員構成の比率より低くなっている。(図-2)

(3) 最終学歴： 大学(旧工専を含む)卒業が3分の2を占め、大学院修了を含めると90%を超える。(図-3)

以上のように、部分的な特徴は認められるが、全体としては会員構成比率を反映した回答となっていると

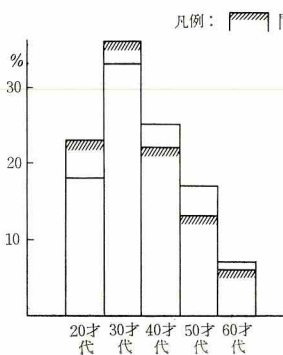


図-1 年齢

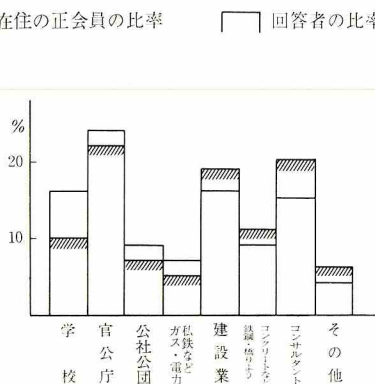


図-2 勤務先

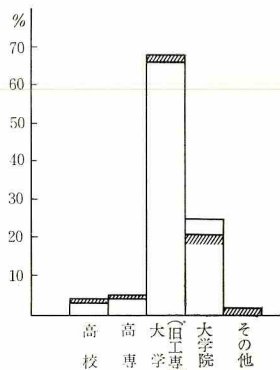


図-3 最終学歴

いえよう。

(4) 業務内容 : 調査・設計業務が30%を占めてもっとも多く、研究、計画、施工、全般の諸業務はそれぞれ15%程度となっている。(図-4)

勤務先と対比してみると、①学校は研究業務、コンサルタントは調査・設計業務が中心であるが、官公庁は計画業務、調査・設計業務が多く、施工業務、全般も目立つ。②建設業は施工業務が中心であるが全般とする業務も多い。③公社・公団、ガス・電力・私鉄、鉄鋼・橋梁・コンクリートは調査・設計業務が多いが、計画業務や施工業務も目立つ。(表-1)

(5) もっとも関心ある分野: 一般的には、構造・設計計画、施工法、土質工学の各分野に対して関心が強いといえる。(図-5)

勤務先と対比してみると以下のようになっている。①学校は、研究業務が大半であるものの、関心はどの分野にもわたっている。②官公庁では、計画業務、調査・設計業務が中心であるが、計画指向である。しかし、その他の分野にも広く関心を持っている。③公社・公団では、官公庁ほど明白ではないが計画指向であって、構造・設計や施工法、土質工学への関心も目立つ。④ガス・電力・私鉄では、公社・公団と同様の傾向を示しているといえよう。⑤建設業では、施工法への関心をもっとも強く、土質工学にも多い。⑥鉄鋼・橋梁・コンクリートは、構造・設計に多く、施工法も関心ある分野であるといえる。⑦コンサルタントは、調査・設計業務が主体

であるが、構造・設計をはじめとして計画、土質工学、水理関係、施工法というように幅広い分野に関心を持っている。

分野側からみると、構造・設計、土質工学はほとんどの部門に関心があるのに対し、計画は官公庁、施工法は建設業に集中している。水理関係や衛生工学は官公庁、学校およびコンサルタントにおいて関心が強く、材料関係は学校が中心となっていて建設業、公社・公団、鉄鋼・橋りょう・コンクリートにも関心があるといえる。(表-2)

2. 行事企画について

各設問に対する回答状況をとりまとめると図-7のようになる。回答者属性の全体的な特性やクロス集計表も参照して分析することにより、支部行事企画に対して以下のようなご意見のあることが分かった。

- (1) 行事の案内: ほとんどの会員が学会誌又は支部行事案内から知っている。
- (2) 行事への参加: 他人を参加させることも含めると大半の人が参加したことがあるが、今年に限ると40%程度の参加状況となっている。
- (3) 参加の動機: 自発的な動機で参加する人が過半数である。年齢が高くなるにつれてこの傾向が強い。
- (4) 参加費の負担と額: 大方は勤務先負担である。参加費の額に対しては、「妥当な程度」とする人が多いが、20才代および30才代では「やや高い」とするものももっとも多く、「高すぎる」とする人の比率も高い。

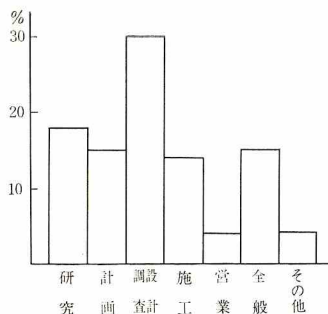


図-4 業務内容

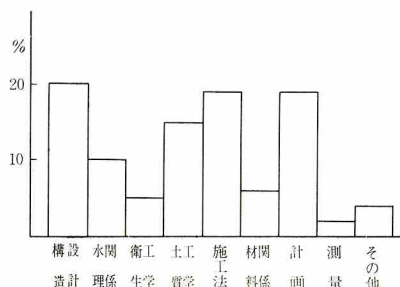


図-5 もっとも関心ある分野

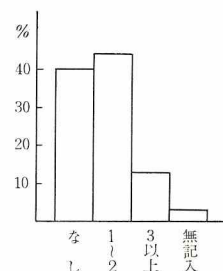
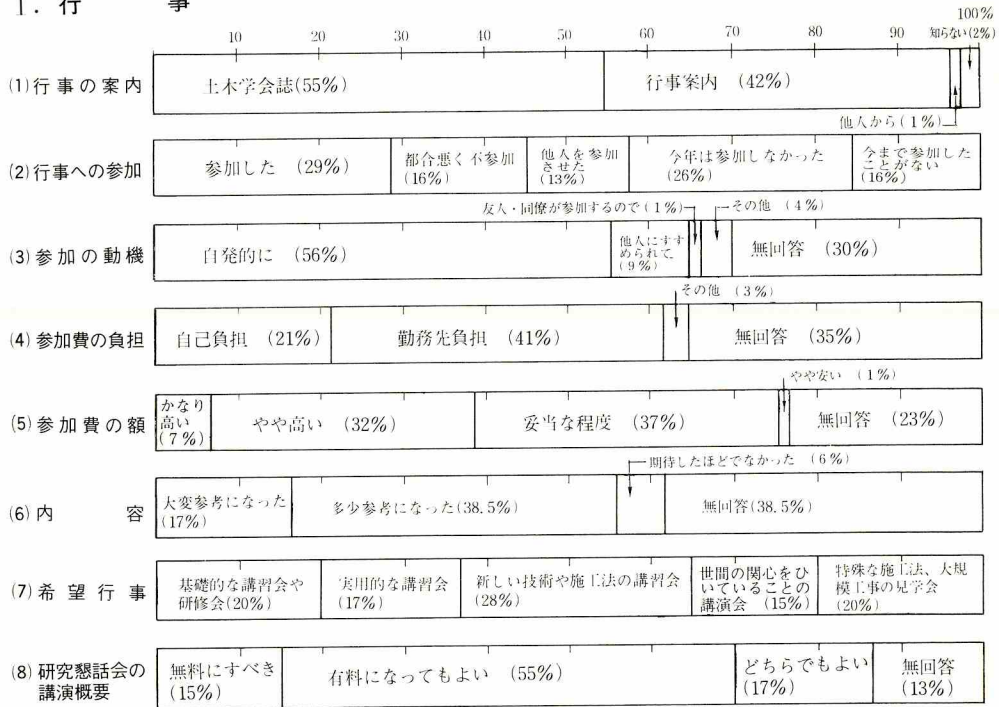


図-6 他の学協会への加入

I. 行事



II. 「支部だより」

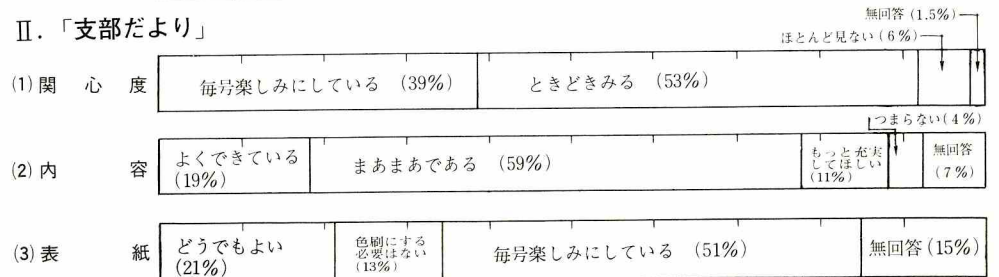


図-7 各行事企画に対する回答状況

表-1 勤務先別業務内容

業務内容	業務内容						計
	研	計	調	施	営	全	
	究	画	査	工	業	他	
勤務先			設計				
学 校	171	3	0	0	0	3	174
官 公 庁	5	96	112	58	1	54	15
公社・公団	1	26	48	20	1	23	6
ガス・電力私鉄など	6	26	35	16	3	29	4
建設業	27	10	31	81	31	45	3
鉄鋼・橋梁コンクリートなど	17	9	54	16	12	18	3
コンサルタント	7	30	127	4	10	29	3
その他	15	11	12	3	6	10	9
計	249	211	419	198	64	211	60

表-2 勤務先別関心のある分野

関心のある分野	関心のある分野										計
	構	水	衛	土	施	材	計	測	そ	の	
	造	理	生	質	工	料	画	量	他		
勤務先	設計	関係	工学	工学	法	関係					
学 校	47	43	24	30	16	32	36	8	5	241	
官 公 庁	55	54	25	53	58	6	113	4	17	385	
公社・公団	29	5	3	17	23	12	37	0	5	131	
ガス・電力私鉄など	24	5	1	21	26	3	31	0	5	116	
建設業	19	9	4	50	117	18	23	5	12	257	
鉄鋼・橋梁コンクリートなど	69	6	2	11	28	12	9	0	7	144	
コンサルタント	66	31	13	41	23	5	45	2	11	237	
その他	10	11	9	8	9	5	8	3	5	68	
計	319	164	81	231	300	93	302	22	67	1579	

- (5) 行事の評価：「多少参考になった」がもっとも多く、「大変参考になった」をも含めると過半数になっている。しかし、無回答が40%弱もあり、数多くの行事を単純に評価することに困難さを感じている。年代別にみると、30才代、40才代ではやや厳しく評価しているようであり、50才代以上での評価は逆によくなっている。
- (6) 行事企画への希望：新技術や新工法を紹介する講習会への希望がもっとも多く、その他の行事への希望も多い。自由欄に記された各回答者からのご意見にも講習会、研修会、シンポジウム、見学会など関西支部の特徴を生かした、参加しやすい行事企画への要望が沢山あった。年代別では、20才代、30才代では基礎的、実用的な講習会や研修会への希望が多く、40才代、50才代では見学会への希望が多いようである。
- (7) 研究・懇話会の講演概要の作成：有料になっても作成した方がよいとする意見が過半数を占めている。
- (8) 「支部だより」：「支部だより」は関西支部のみが発行している企画ですが、約40%の方が毎号楽しみにしており、「ときどき見る」も含めると90%を越え、当支部における“声の広場”としての役割を担っているといえます。毎号土木関係の写真で飾られている色刷の表紙も好評を博しているようです。内容に関しても良い評価がなされていますが、「もっと充実してほしい」、「つまらない」とする意見が15%程度あり、今後もより一層よい評価を得るよう努力することが要請されていると思われま

す。今回のアンケート調査によって支部行事企画への全般に関するご意見を得ることができましたが、個々の行事企画に関しても参加者に対してアンケート調査を行うなどして参加者の意見を直接把握する努力が必要であろうと思います。

おわりに

今回は、アンケート調査の集計結果とその一次分析を中心として報告しました。このアンケート調査ではこの他にも自由欄に多数の方々から多方面にわたるご意見・ご要望をいただき、その中には当支部の活動範囲を越えるものもありました。私達はそれらを当支部に対する期待と激励の声と受けとめて、学校班、各職場班の班長会議をはじめとして会員各位のご意向を可能なかぎり把握するように行動を開始しております。また、こうした取組みと併行して、今後の支部運営に関わる長期的展望や支部企画の単年度行事予定等に関して幹事会、担当幹事会を中心として討議を重ね、望ましい関西支部のあり方について模索しているところであります。それらの具体的成案については次号の「支部だより」に掲載する予定としておりますので、支部会員各位におかれましても支部運営や行事企画等に関するご意見並びにご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

総務幹事； 甞受昌和，春名 攻，田坂隆一郎

地方だより

越前加賀海岸国定公園

——特に三国町周辺について——

柳 森 嘉 勝

越前加賀海岸国定公園の指定区域は、南は敦賀市杉津から開発の進む三里浜海岸の一部を除いて加賀市柴山瀨に至る海岸一帯に及んでいる。見どころとしては海食崖の発達する越前岬、見事な柱状節理が展開する東尋坊、越前松島などがある。海岸沿いを国道 305 号

5 万トン級船舶入港可能な港湾を計画し53年7月1部開港した。

三国町の見どころとしては、名勝東尋坊があり巨大な輝石安山岩が見事な柱状節理を見せてそそり立ち、日本海の荒波に洗われた景観は勇壮そのものである。

また、真言宗智山派の滝谷寺の庭園は丘陵の斜面を利用して造られてある山水庭園で江戸時代中期の作庭とみられ、面積は1700m²で国指定の名勝である。その他、高見順、高浜虚子、森田愛子、伊藤柏翠らの文学碑がある1.5km余りの荒磯遊歩道や越前松島があり、また、例祭が北陸三大祭りの一つにあげられる三国神社がある。

三国町の隣りには芦原町があり、その中心に芦原温泉がある。明治16年に開湯され、丘陵地を背に広々とした福井平野に面した一角にあり“関西の奥座敷”とか“おしゃれの湯の町”といわれ現在旅館は約70軒あり、近代的な建築のもの、また豪華な庭園を備える旅館等いろいろ

線が走っており、沿線は夏は海水浴と新鮮な魚類、冬は越前ガニの産地として親しまれている。その内で三国町近辺について紹介します。

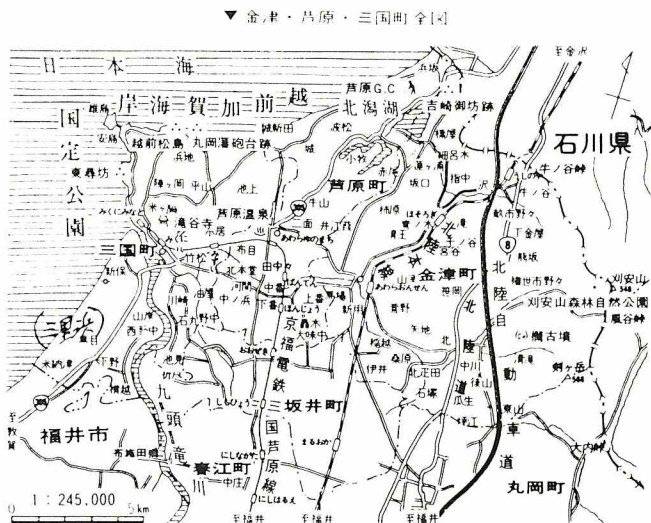
三国町は九頭竜川の河口に臨む古くからの港町です。すでに8世紀ごろ三国に来泊したという高麗の使臣の記録があり、中世には日本海航路の要港として発展し、江戸時代には福井藩の外港として物産輸出入の要衝となり、港町につきものの遊郭も大変にぎわったのである。維新後は明治30年に鉄道が開通したので、港の役割は失われ地方の一漁港として余命を保ってきた。

現在三里浜（三国町および福井市川西地区）に福井新港と福井臨海工業地帯の建設を行っている。その造成計画は12,955千m²、そのうち工業用地7,333千m²で

あり泉質は含塩化土類食塩泉40～70度で切り傷、リュウマチ、神経痛、婦人病に効くとされている。

石川県境の金津町吉崎には、文明3年（1471年）本願寺8世蓮如上人が真宗の道場を創建し、ここを中心とし真宗は北陸一帯に根を下ろし、一時は吉崎に宿坊が100余戸もあったが、一向一揆の争乱のときことごとく失われ江戸時代に入って東西両本願寺の別院が建てられ、現在もこれを総称して吉崎御坊とよんでにぎわっている。

福井県総務部技監



昭和56年度 関西支部役員紹介

支部長	丹羽 義次 (京 都 大)		
副支部長	川崎 健次 (鴻池組)	藤村 実 (大 阪 府)	
商議員	芦岡 三雄 (中 ^中 央 ^央 復 ^復 旦 ^旦) 井上 和也 (京 都 大) 浦部 卓士 (滋 賀 県) 雄倉 幸昭 (大 阪 工 大) 加藤 久和 (清 水 建 設) 上山 高明 (奈 良 県) 岸本 進 (神 戸 市 立 工 学) 好高 田豊 (国 鉄) 高田 橋保 (京 都 大) 田中 昭一 (南 海 電 鉄) 林博 博 (国 鉄) 堀川 浩甫 (大 阪 大) 山岸 安司 (福 井 県) 吉田 公憲 (東 洋 学 校 研 究 所)	石井 博之 (奥 村 組) 井上 雅夫 (関 西 大) 榎本 正雄 (京 阪 電 鉄) 小沢 健作 (片 山 鉄 工 所) 金山 正吾 (大 阪 市) 軽部 大蔵 (神 戸 大) 栗林 木宏 (青 木 建 設) 白田 亨 (関 西 電 力) 清田 敏 (日 本 港 務 局) 谷平 勉 (近 畿 大) 樋口 通夫 (大 阪 市) 牧 豊 (東 武 東 上 野 線) 矢 的 照 夫 (神 戸 市)	市川 紀一 (道 路 公 団) 上田 浩太 (松 尾 橋 梁) 奥井 英夫 (京 都 府) 小田 一紀 (大 阪 市 大) 上林 好之 (近 畿 地 建) 河井 章好 (阪 神 高 速) 杉出 博義 (修 成 建 設) 小浦 義章 (三 港 建) 田口 荘一 (不 動 建 設) 西田 幹夫 (兵 庫 県) 堀内 由弘 (京 都 市) 向井 文夫 (大 阪 府) 横山 義幸 (和 歌 山 県)
評議員	内田 孝吉 (水 資 源 公 団) 大橋 淳治郎 (オ リ エ ン タ ル) 工藤 和男 (三 港 建) 桜井 春輔 (神 戸 大) 中埜 肇 (阪 神 電 鉄) 横安 山恒 (奈 良 県) 横山 賢 (神 戸 市)	大久保 暢夫 (川 崎 重 工 業) 片瀬 貴文 (中 ^中 央 ^央 復 ^復 旦 ^旦) 久保田 順三 (熊 谷 組) 佐佐木 綱 (京 都 大) 西原 巧 (近 畿 地 建) 松本 忠夫 (阪 神 高 速)	大隅 欣一 (大 阪 府) 川嶋 弘治 (阪 急 電 鉄) 近堂 賢一 (大 成 建 設) 高間 佐太郎 (大 阪 市) 丹羽 義次 (京 都 大) 山田 善一 (京 都 大)
理事	芦田 和男 (京 都 大) 三輪 利英 (大 阪 市)	中川 博次 (京 都 大)	日永 善雄 (鹿 島 建 設)
幹事長	中川 博次 (京 都 大)		
幹事	惟受 昌和 (阪 神 高 速) 廣田 泰久 (近 畿 地 建)	総務担当主査 平 峯 悠 (大 阪 府) 会計担当主査 松 井 啓之輔 (大 阪 工 大)	企画担当主査 編集担当主査
	芦田 潮 (横 河 橋 梁) 陰山 凌 (兵 庫 県) 久保田 英之 (大 阪 市) 佐藤 正史 (関 西 電 力) 春名 攻 (京 都 大) 三浦 昭爾 (大 林 組) 横山 康夫 (中 ^中 央 ^央 復 ^復 旦 ^旦)	飯田 幸男 (神 戸 大) 片瀬 範雄 (神 戸 市) 栗原 徹 (間 組) 田坂 隆一郎 (鴻 池 組) 藤岡 繁樹 (国 鉄) 村里 正彦 (道 路 公 団) 米澤 靖夫 (近 畿 鉄)	伊東 司郎 (三 港 建) 北田 俊行 (大 阪 市 大) 榎原 和彦 (大 阪 産 大) 谷本 親伯 (京 都 大) 松井 繁之 (大 阪 大) 山田 淳 (立 命 館 大)

表紙写真説明

名称 福井県若狭和田マリーナ
位置 福井県大飯郡高浜町和田
マリーナの概要

(1) 設置目的

今後増大が予想される海洋性スポーツの需要に対応するため風光明媚な若狭湾の特性を生かして高浜町和田地区に大規模海洋性レクリエーション基地を建設した

(2) 着工年月日 昭和47年10月1日

(3) 完成年月日 昭和55年5月30日

開港 昭和55年7月7日

(4) 総事業費 2,979,950千円

(5) 施設の概要

敷地面積	45,531.9 m ²
収容隻数	488隻 (ディンギー450隻 クルーザー 38隻)
船揚場 (ボートヤード)	12,000m ²
修理ヤード	1,500m ²
駐車場	13,500m ² (450台)
棧橋5基	斜路 2ヶ所
ウインチ(1トン)1基	給水施設 7基

昭和56年度 支部事業計画一覧表

	56年			57年
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
講演会	●支部総会講演会 5/8 ●支部学術講演会 6/1	●業務研究発表会* 8/21	●高専学生対象講演会 11/16 ●福井地方講演会* 11/20	●技術革新講演会 1/19 ●施工技術報告会* 1/26
講習会	●廃棄物再利用 5/22 ●有限要素法* 5/28, 29, 6/4, 5 ●場所打ちぐい* 6/20, 21	●水工学 7/21 ●都市景観 8/20 ●航空写真* 8/24, 25 ●NATM工法と施工機材** 9/17, 18 ●流体計測とデータ処理* 9/17, 18 ●海洋環境 9/25	●自動作画* 11/18 ●機械・構造物の破壊力学* 11/4, 5, 6 ●コンクリート終局強度 12/8	
研修会			●動的解析 10/22, 23	
研究・懇話会				●無塗装橋梁 2/24
映画会	●一般映画会 6/1		●学生映画会 11/5~27	
見学会		●MATM工法 9/17	●大和川橋梁他 11/17	
懇親会	●総会懇親会 5/8			●会員懇親会 1/19 ○支部懇談会 ●幹事懇親会 1/6
シンポジウム 座談会			●道路維持管理 11/25	○座談会
刊行物		●支部会員名簿発行 9/25	●支部だより19号発行 10/1	●支部だより20号発行 4/1
主な会議	●商議員会 5/8 ●支部総会 5/8 ●本部総会 5/26 ●商議員会 6/24	●班長会議 (学校班) 7/6 ●班長会議 (官公庁班) 8/4 ●班長会議 (民間企業班) 9/4 ●班長会議 (コンサルタンツ班) 9/7	●商議員会 10/14	○次期役員選考打合せ ●商議員会 2/17
その他	●役員選挙 4/7 ●会計監査 4/21		●全国大会 10/6, 7, 8 ○会計監査	

1. 年間の事業計画として、すでに実施済みのものも掲載した。
2. 表には項目だけを掲げた。詳細については決定次第、行事案内か会誌により案内する。
3. * 印は共催、協賛を表わす。
4. ○印は現在未確定のものを表わす。
5. 事業計画についてのご意見、ご希望は支部幹事または事務局へお申し出ください。